



短縮文



「りよ」。新人社員にメールを送ったところ、たった2文字のこんな返事がきて仰天した～という話は都市伝説でしょうか。「りよ」とは了解の短縮形です。もっと略すと「り」。上司とのやりとりに使うかどうかは、ともかく、若い世代にずいぶん広まっています。いろいろ考えて長々と書くおじさん、おばさんに比べると若者のメールは総じてあっさりしたものです。短っ！と驚くばかりだが、文章を縮めたり略語をつくったりするのは昔から日本人の得意技です。人々は「当たり前だ、べらぼうめ」「あたぼう」とはしより、天下の豪商、紀伊国屋文左衛門を「紀文」と呼んだ。日常的にはほとんど絶滅した電報を打つ場面がよく出てくるが、スクリーンに大写しになる「ウナヘンマツ」とか「アトフミ」とか、いまは判じ物です。前者は「至急返事をまっています」。後者は「あとは詳しく手紙に書きます」。の意味なのです。オリンピックは「五輪」。万国博は3文字をさらに縮めた「万博」が世に知れわたりました。短い言葉が持つパワーです。だから政府も次々に打ち出す大仰なキャッチフレーズの短縮刑など掲げてみたらいい。たとえば一億総活躍は「億総」。人づくり革命は「人革」……。しかしやはり、肝心なのは中身ですよね。「ヨロオネ」。

都商会 鎌野



献眼



御殿場ライオンズクラブの幹事をやらせていただき、3ヶ月が過ぎようとしています。ライオンズクラブの年度替りが7月なので、7・8・9月の3ヶ月、ようやく1年の1/4が経過したこととなります。幹事の仕事はいろいろありますが、その中の1つがクラブの主要事業である献眼活動で献眼していただいた方の、通夜・告別式に会長の補佐として参列することです。通夜で献眼者の遺族の方にライオンズ334-C地区のガバナーからの感謝状と静岡県アイバンクからの感謝状を会長が読み上げてお渡しするのですが、感謝状を持って会長と一緒に前に出て感謝状を渡す役目です。告別式の時には会長が前に出て弔辞を読む際に、一緒に前に出て並んで挨拶等をします。本年度は3ヶ月で既に10名の尊い献眼があり、都合で総ての葬儀に出席することは、出来ませんでした(3つの通夜・告別式が同じ日に重なったことがありました。)通夜に8回、告別式に7回、参列させていただきました。自分自身が出席しなければならないお通夜がその間5回程ありましたので、3ヶ月で20回程、通夜・告別式に参列したこととなります。

人生で一番葬儀に参列する年度となることは間違いないでしょう。このペースなら80回ぐらいになります。さて、葬儀に参列して改めて思ったことは、人の人生というのは本当に人それぞれに色々なことがあり、多様な生き、様々な人生の終わり方があるということです。そしてそれはほぼすべてが人と人との出会いから生まれるということです。それが、子孫に引き継がれて行く。今年1年、本当にいい機会をいただいたと思います。人生について、これからの残された時間をどう生きて行こうか、どの様に引き継いでゆこうか等、じっくりと考えてみたいと思います。最後に、献眼は献眼登録していなくても亡くなられた方や家族からの申し出があれば、どなたでもすることが出来ます。ライオンズクラブ・病院・消防署・葬儀場等に、お申し出下さい。年齢は関係ありません。ただし、感染症やお亡くなりになられてから余り時間が経過してしまうと献眼することはできません。また献眼登録していても、遺族の方の承諾がなければ献眼は行いません。献眼登録は、御殿場ライオンズクラブにお申し出下されば、随時登録の用紙をお配りしています。商工会で行う献血や年に1度交流センターで開かれる「ふれあい広場」でも、献眼登録の受付をしていますので、よろしくお願ひします。

英樹



林 なをみ

勝亦 りつ子



配り

第 220 便

勝亦製材駿河鉄骨組

住まい塾御殿場教室

TEL (0550) 87-0048

FAX (0550) 87-1237

〒412-0035 御殿場市中山518番地

台風に好かれる宿命あしはらの
瑞穂の国が実りの季を
病む夫と造りし野菜よく出来て
近所に配り心豊かに



雪化粧はいつだ



写真を始めたということはここで何度か触れさせてもらっていますが、実は2年ほど前からWEB上で富士山の写真を撮るサークルを運営しています。ほぼ毎日自宅からの富士山を携帯で写真にとってサークルにアップしています。御殿場に住んでいる者にとって、富士山はそこにあって当然で、景色の一部となり有難味も特に感じていませんでした。

しかし遠方の方は富士山が見えるということがとても嬉しいようです。日本の象徴なのです。毎日携帯の画面で見られる富士山に一喜一憂してもらおう事がとても嬉しく、富士山の見えるこの地に住んでいることがとても誇りに思えてきます。

そんなサークルで今一番の話題が今年の初冠雪です。御殿場で確認したのは去年では確か9月25日でした。やっぱりその頂に白亜の冠を載せてこそ富士山なんですよ。

さて、今年はいつになるのかな。楽しみです。



柳田 敏和



諸行無常

自分が生まれ育った家より嫁いだ先の暮らしの方が長くなり、他人である私が馴染んで家族となる。当たり前のように、これがなかなか努力がいります。(そう思っているのは私だけか?)先日、自分の父が彼岸の向こうへ逝った。嫁ぎ先の義父は50代半ばで逝ってしまったので旦那と私はあちらこちらの親戚の人々を見送る役目となり、もう何人彼岸に逝く人を見送ったことかおぼえていない。嫁ではありますが、その人々の顔や雰囲気はおぼえているので、この世からいなくなっていくのはなんとも寂しいものです。人の死にふれると、いったい人の人生とはなんだろうなあ。と考える。諸行無常でしょうか。

「諸行無常」とは、「人生は永遠に続かない」という意味。「自分自身含めたすべての物事は絶え間なく変化している」という意味で、自分自身ですら不変的なものはない

現実的な事でいえば、人間、口から物を食べられなくなったら、オシマイ。遺品といわれる物は遺された者にとっては、ゴミが多い。最期を迎える時は「人生面白かったなあ」。って思いたい。その為にやっぱり努力しないとだめだなあ。小さなことにはこだわっていただけせん!! (また草はえてるよ・・・なんて小さい小さい)

ねがみ



秋暑の収穫

夏中、生い茂って、私共に薬味、又、貴重な緑の葉を提供してくれた紫蘇。ここにきて葉の緑は退色し、代わって、種子が実ってきました。しその実の塩漬けの時期です。暑いわ、蚊がいるわと、先延ばしにしてきたが、少し涼しい日に、意を決して、種子をしごき取った。

それにしても、私が子供の頃には、盛夏といえども、この様な暑さは無かった。秋の収穫には、ミレーの“落穂拾い”の如く、しっとりとした秋日和の中、手伝いをした。気象予報士が、申すには、この時期の暑さは、残暑に続いて秋暑だと言う。『秋暑』辞書には見当たらない。語呂さえ暑苦しい。そんな厳しい秋暑の最中に実りの秋を迎えての『米』の収穫びと。暑いからとしその実の収穫をためらう私。彼、彼女らに『幸多かれ』『いただきます』と、手を合わせ、頭を垂れます。



栗原



今年の熱中症の総括

9月も終わりに近づきようやく夜も涼しく、ともすると朝方寒くて薄手の布団を掛けたりしてしまう季節だったりしますが、しかし、気温は30度近くになるので、まだまだ熱中症に対する油断は禁物ですが、今年もこの時期に今年の熱中症の総括をしたいと思います。まあ結論から言うと、今年は去年以上に熱中症の症状を起こし、その為に現場から病院もしくは軽度の場合は自宅まで搬送する。という事例はありませんでした。やはり、思った以上に暑くなく、暑くても猛暑日(日中の気温が35度を超える日)が少なかったのが幸いしたのだと思います。これからは日中でも暑くなくなり仕事をしやすい季節になりますが、熱中症に対する対処の仕方や症例の事例など啓蒙活動などを積極的にやっても、なってしまう時はどんな時でもなってしまうように思います。

やはりこればかりは真夏の日中の気温に比例するようです。今年が良かったから来年もなんて事はないですが、やはり真夏もほどほどに暑い位が丁度良いと思います。

以上

旭機材(株) 望月昭宏

